



Subaru

男声合唱団

ニュース No.320

'11. 09. 11

本並美徳さんの 古稀とうたごえ50周年を祝う会

盛大に開催
...9月4日(日)...

□かねてから本並先生が指導する6合唱団を中心に実行委員会をつくり、計画を練って準備してきた「本並美徳さんの古稀とうたごえ50周年を祝う会」が、9月4日(日)14時から、たかつガーデン「たかつ」の間で開かれ、130人の参加で盛大に祝いました。



□吉田親家さんのアコーディオンに載せて会場が「地底の歌序章」を高らかに歌い上げる中、本並先生が拍手に迎えられて入場し、つづいて、本並夫妻に花束が贈呈されました(奥様は交通事情で少し遅れたため、代わりに娘さんが受け取られました)。

□つづいて、実行委員会力作の「本並さんの歩んだ道」のビデオと孫曼さんからのお祝いのビデオレターが上映されました。

□吉田親家さんの見事な祝賀アコーディオン演奏(写真右)をはさんで、心温まる祝辞を、下の写真左から、宝木実さん、



東京から台風をついて来て頂いた大門高子さん、高田和弘さん、山下和子さんから頂きました。



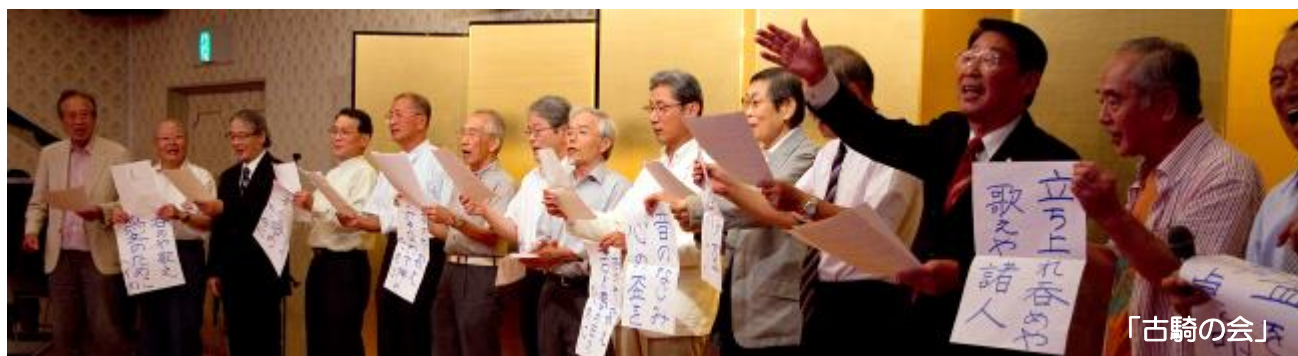
□「思い出を語る」として、奥様の本並美津恵さん、娘さんの羽田佳子さんから我々の知らない本並先生の一面を紹介してもらいました。夫、父親の苦勞と努力の歴史を温かく、冷静に評価し、信

頼を寄せていることが伝わってとても良かったと思いました。(写真下中)



□そのあと、乾杯を藤後博巳さんの音頭で行いました。(写真上右)

□暫くの歓談のあと、祝賀演奏に入りました。「古騎の会」(本並先生を筆頭に、男声合唱団 昂の古稀の面々13名、一騎当千の「騎」を当てています・乾杯の歌)、「レインボーコーラス」()、「とよの合唱団」(村祭り)、「鳴尾牧子さん」(サイ馬・二胡)、「奈良紫金草合唱団」(紫金草物語 第12章)、「ロシア民謡合唱団コスモス」(町の鍛冶屋)、「関西紫金草合唱団」(シャボン玉)、「男声合唱団 昂」(歎びのナーダム)を演奏しました。祝賀演奏といっても、6合唱団の指揮はもちろん本並先生本人に振って頂きました。飛び入りで昂団員の野村さんの祝いの詩吟も披露されました。



□本並先生のご挨拶(後掲)のあと、記念品を贈呈しました。記念品は「マッサージチェア」で、すでに本並先生のお手元に届いていて、毎日の疲れを癒すのに使っていただいています。今日は、目録のみ贈呈しました。





「とよの合唱団」

□最後に本並先生の指揮で、会場一杯に「花を送ろう」を合唱し、めでたくお開きとなりました。



鳴尾牧子さん

□実行委員の皆さま、ご苦労様でした。月日かけた周到な準備のおかげで、楽しい、意義深い「祝う会」となりました。有難うございました。



レインボー
コーラス



「ロシア民謡合唱団コスモス」



奈良紫金草合唱団



関西紫金草合唱団

本並美德さんのご挨拶（要旨）

本日はこんなに沢山の方々の祝福を受けましてこの上ない幸せです。本当にありがとうございます。東日本大震災と福島原発事故の大変な時期に御祝いは遠慮したいと申しましたが実行委員の方々から、これはまた違うことですということで、今日の運びとなりました。

皆さま遠路を、東京からお運びいただき、古稀などとは言わず遥か上の諸先輩も含めて、同じ古稀を迎えた十数名の皆さんと共に、私の古稀をダシにして今日の楽しいつどいを持たれたことはうれしいことです。祝辞で古稀はまだ青年という言葉も頂きましたが、もっともっと頑張れということの会であるのかとも思います。

振り返ると70年はやはり長い年月でした。50年前神戸の再度山（ふたたびさん）で、うたごえに接し、相根義治さんに誘われたのがうたごえに携わるきっかけでした。過去を振り返らず前へどんどん行く性質なので、記録や写真は数少ないのですが、それを引っ張り出したものを、先ほどのビデオに実行委員の方々を中心にまとめて頂きました。

最初は指揮者になろうとは夢にも思っていませんでした。関西合唱団の専従となり、宝木さん、吉田先生はじめ諸先輩のご指導のもと、アコーディオン、ピアノ、音楽理論、和声学、指揮法、社会科学を学び、関西合唱団をメインに研究生の講師やサークル指導、「大東京火災」、「千里の森コーラス」、「東大阪センター合唱団」また、「レインボーコーラス」や「河南混声合唱団」の指揮をするようになりました。この間、うたごえ運動のため役立つ人間になりたいと真剣に取り組んできたつもりです。

さらに、藤後博巳さんとの出会いが、指揮活動の場を広げることになりました。「ロシア民謡合唱団コスモス」、「関西紫金草合唱団」、「奈良紫金草合唱団」、「男声合唱団昂」、「とよの合唱団」と、この15年、本職の調律をさしおいて、本格的な指揮活動が出来たことは、指揮者冥利につきることで、それぞれの合唱団のみなさんの励ましがあったからこそと、感謝に堪えません。

私は、まだまだ若い、使えるようですが（笑い）、古稀も迎えました。かねてからの課題の、若い音楽家に引き継ぐことを考えねばなりません。レインボーコーラスは新進気鋭の石若雅弥さんに引き継いだところです。他の合唱団はどうなっていくのでしょうか（笑い）。

そんな中で特に、紫金草物語を通じて、大門先生の詩「人間が人間として生きるには」と、紫金草物語に南京の人たちがつけてくれたサブタイトル「不忘歴史 面向未来」を真剣に考えるようになりました。十数回に及ぶ中国との交流の中に一番楽しく意義のある、充実した自分があったような気がします。毎年、山口裕さん（紫金草の種を持ち帰った誠太郎さんの息子さん）に負けまいと、紫金草の種を増やし続けています。

この年になってやっと、皆さんから「人間としての生き方」を学ぶことが出来たように思います。ほんとうに有難うございました。

進み過ぎた人間の英知が間違った方向に行かないように、「新しい天の火」が人を焼き尽くすことの無いよう、祈るだけではなく行動をする、そんな方向に残された人生を歩んで行きたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。本日はほんとうに有難うございました。